

令和6年度 ほどほどの会

日時:2024年10月15日(火)15:30~17:30

場所:港北病院

参加者:田中(わおん)、藤井(常盤台病院)、芳垣(区役所)、田村・早川(基幹相談支援センター)、小池(港北病院)、佐藤若(生活支援センター)(敬称略)

【議題】

I. 常盤台病院 OT との協働活動

①生活教室

院内コロナ流行のため10月参加は延期となった。今年中にゲームのプログラム開催日に参加予定。

②出張あかね工房

○実体験報告会の実施を受けて、次回以降の計画について

- ・参加者の中で退院の見通し段階によってグループ分けし、終了後の振り返りができるとよい
- ・今回のインタビューの内容から、住まい・お金など参加者の気になったキーワードは何だったか集めておく
- ・いずれは病院からあかね工房に向いて作業体験ができるとよい
- ・院内作業はネットワークの会の他事業所でも回しながら継続し、ゆくゆくは他の区内事業所にも担当してもらえるとよい

→患者さんの感想としては:

雰囲気良く楽しかった、作業所でできることのイメージがついた、自分が見たことのない事業所を知ることができよかった。工賃はいくらもらえるのかとの質問あり(お金がキーワード)

今後について:

①参加者

退院までの段階に応じてグループ分けする

②実施内容

退院の阻害要因として、地域生活への漠然とした不安、病院の居心地の良さが挙げられる

→まずは常盤台病院内で、患者数名に向け何を不安に感じているのか具体的に調査する(お金、住まい、など項目分けすると聞き取りやすいか)。結果をもとに内容を実施内容を検討

③次年度のアイデア

- ・入院患者の家族向け社会資源講座:ほどほどの会と家族会コラボ?家族会へ講義依頼するか
- ・ネットワークの会のあかね以外の事業所でも同じように作業体験・体験者の話での実施は可能か

④頻度

年間のスケジュールをパッケージ化し、2~3カ月に一度で開催できるとよいか

2. ケース検討

1. 新規ケース

〈常盤台病院〉

58歳 女性 生保は八王子(病院の関わり開始時点で戸籍がなかった)

阻害要因:戸籍ない、亡くなった扱いとなっている。本人が行方不明になった際に家族が死亡届を出してしまった戸籍を復活させる方法はある個人の特定はできているが、本人は自分が中国人だという妄想があり、中国名を名乗ってしまうため復活できていない

八王子の救護施設は戸籍なくても受入れ可だったが、クロザリルの治療の件もあり常盤台に通院継続してほしい
退院の見通し:クロザリルの治療が終わってから、来年の4月以降

→アイデア

八王子の生保から横浜の救護施設に相談をしてもらう、法律相談にかけてもらう

戸籍復活に向け、日本国籍もあつた方が退院進むこと、日本名を持つことのメリットを伝えられるとよいか

〈港北病院〉

・新規検討したい患者さんがいたが病状悪化してしまった。様子を見て検討に上げたい。

・昨年度のケース検討後、区役所へ法律相談をした方

いとこと連絡が取れたが、成年後見申立の件などは「負担がかかる」と拒否

→退院に向け退サボ導入など具体的な動きを取ることをアピールしていく

〈入院患者リストより〉

長期入院者:65歳以上の認知症患者 特養の待機、グループホーム移行は金銭面がネックとなり進みにくい
高齢化が進み、認知症専門の病棟がない中で混沌とした病棟となる。入院中に認知症に切り替わる方もいる。

→ケースを絞り保土ヶ谷区在宅医療相談室を交えて検討できるかもしれない

2. 継続ケース

〈常盤台病院〉

①76歳 女性 妄想性障害

選択肢があることは伝えているが、自宅退院への固執は変わらず。支援者介入を望まない。

長男との電話は電波で話せているため不要とおっしゃり、長男は面会に行くとは言うが来てはくれない

→長男には入院継続が難しいことお伝えした上で、ご本人へ電話で自宅退院は拒否であることを告げてもらう。

②88歳 男性 双極性障害 要支援I

外泊時に転倒してしまい、家族が自宅で見ていけるのか心配している状況。

外泊2回目の11・12日の様子を確認する

3. その他

・10月の法改正:退院支援委員会を半年に1度行うこととなる

→病院内の現状として、開始しまもなく、スケジュールもタイトであり日程調整に追われている状況

次年度以降を目標に、病院として定期的な日程を決めておき、ほどほどの会メンバーが参加できるとよい

次回:2024年11月19日(火) 15:30~17:00 場所:常盤台病院

普及啓発チラシについて、掲載する社会資源の検討